

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-261164

**(43)Date of publication of application : 16.09.1994**

(51)Int.Cl.

H04N 1/00

(21)Application number : 05-048052

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 09.03.1993

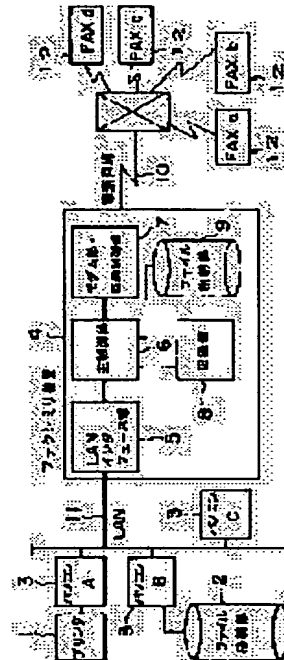
(72)Inventor : TAMAOKI TADASHI  
TAKAHASHI TOKUKAZU

**(54) FACSIMILE EQUIPMENT**

**(57)Abstract**

**PURPOSE:** To perform the automatic distribution of facsimile data by transmitting the facsimile data received via a telephone line to an information processor connected to a LAN in facsimile equipment connectable to the LAN.

**CONSTITUTION:** In the facsimile equipment 4, a personal computer 3 that becomes the transmission destination of the facsimile data is decided based on the identification information of the facsimile equipment 12 that is a transmission origin when it is attached on the facsimile data transmitted from the facsimile equipment 12 via the telephone line 10, and a LAN interface part 5 transmits the facsimile data to a decided personal computer 3.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.09.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

**[Date of final disposal for application]**

[Patent number] 3027067

[Date of registration] 28.01.2000

**[Number of appeal against examiner's decision of rejection]**

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2000 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-261164

(43)公開日 平成6年(1994)9月16日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

H04N 1/00

識別記号

104

A 7046-5C

F I

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平5-48052

(22)出願日 平成5年(1993)3月9日

(71)出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72)発明者 玉置 正

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町216番地 株

式会社日立製作所情報通信事業部内

(72)発明者 高橋 徳和

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町216番地 株

式会社日立製作所情報通信事業部内

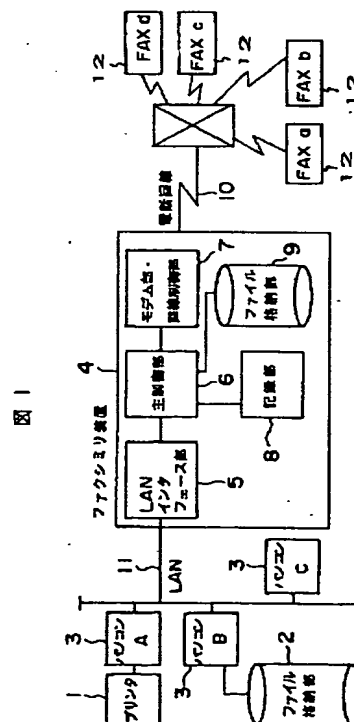
(74)代理人 弁理士 富田 和子

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57)【要約】

【目的】 LANに接続可能なファクシミリ装置において、電話回線を介して受信したファクシミリデータを、LANに接続されている情報処理装置に送信することにより、ファクシミリデータの自動配信を行うことを可能とする。

【構成】 ファクシミリ装置4においては、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されてきたファクシミリデータに、送信元であるファクシミリ装置12の識別情報が付加されている場合に、該識別情報に基づいて、該ファクシミリデータの送信先となるパーソナルコンピュータ3を決定し、LANインタフェース部5は、決定されたパーソナルコンピュータ3に、該ファクシミリデータを送信する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 1 つ以上の情報処理装置が接続されている LAN と、電話回線とに接続されたファクシミリ装置において、

上記情報処理装置との間で、上記 LAN を介して、データを送受信するための LAN インタフェース手段と、上記電話回線を介して受信したファクシミリデータを記憶する第 1 の記憶手段と、上記第 1 の記憶手段に記憶されているファクシミリデータに、該ファクシミリデータの送信元であるファクシミリ装置の識別情報が付加されている場合に、該ファクシミリ装置の識別情報に基づいて、該ファクシミリデータの送信先となる情報処理装置を決定する決定手段を備え、

上記 LAN インタフェース手段は、上記決定手段により決定された情報処理装置に、該ファクシミリデータを送信することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載のファクシミリ装置において、

上記情報処理装置のうちの 1 つが、1 つ以上のファクシミリ装置の識別情報と上記情報処理装置のうちの少なくとも 1 つの情報処理装置の識別情報とを対応付けて記憶している第 2 の記憶手段を備えている場合に、

上記決定手段は、上記 LAN インタフェース手段を用いて、上記第 2 の記憶手段の記憶内容を参照し、上記参照結果に基づいて、送信元であるファクシミリ装置の識別情報に対応する情報処理装置の識別情報が示す情報処理装置を、上記ファクシミリデータの送信先となる情報処理装置であると決定することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 3】 請求項 1 記載のファクシミリ装置において、

1 つ以上のファクシミリ装置の識別情報と上記情報処理装置のうちの少なくとも 1 つの情報処理装置の識別情報とを対応付けて記憶している第 2 の記憶手段を備えており、

上記決定手段は、上記第 2 の記憶手段の記憶内容を参照し、上記参照結果に基づいて、送信元であるファクシミリ装置の識別情報に対応する情報処理装置の識別情報が示す情報処理装置を、上記ファクシミリデータの送信先となる情報処理装置であると決定することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 4】 請求項 2 または 3 記載のファクシミリ装置において、

上記第 2 の記憶手段の記憶内容は、外部から入力/変更可能であることを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 5】 請求項 2、3 または 4 記載のファクシミリ装置において、

上記決定手段は、送信元であるファクシミリ装置の識別情報に対応する情報処理装置の識別情報が上記第 2 の記憶手段に記憶されていない場合、または、送信元である

ファクシミリ装置の識別情報がファクシミリデータに付加されていない場合は、上記ファクシミリデータを自身で記録出力することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 6】 請求項 1、2、3、4 または 5 記載のファクシミリ装置において、

上記識別情報として、G 3 ファクシミリ通信手順において、送信元であるファクシミリ装置から送信されてくる送信端末識別信号を利用することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 7】 請求項 1、2、3、4 または 5 記載のファクシミリ装置において、

上記識別情報として、送信元であるファクシミリ装置において読み取られた送信原稿の、予め決められた場所に記入されている情報を利用することを特徴とするファクシミリ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、LAN に接続可能なファクシミリ装置に係り、特に、電話回線を介して受信したファクシミリデータを、LAN に接続されている情報処理装置に送信することにより、ファクシミリデータの自動配信を行うことを可能とするファクシミリ装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、ファクシミリ装置においては、電話回線を介して受信したファクシミリデータを記録した用紙を、人手で配信するような利用形態が一般的であった。また、ファクシミリ装置が、電話回線を介して、ファクシミリデータの宛先である人の電話機を呼び出し、ファクシミリデータを受信したことを通知する方法もあった。

【0003】 このように、従来は、受信したファクシミリデータの自動配信を行う点について配慮がなされていなかった。これは、ファクシミリ装置が電話回線の端末器としての機能しか有していなかったことに起因している。

【0004】 ところで、近年、LAN の発達に伴い、LAN に接続されている情報処理装置を、電話回線を介してファクシミリ装置と接続し、送受信を行うための技術が考案されている。このような技術としては、例えば、特開平 2 - 9 4 9 5 9 号公報に記載されているように、LAN および電話回線に接続されたファクシミリゲートウェイが、電話回線を介して受信したファクシミリデータに、文書番号を付与して記憶手段に記憶しておき、LAN に接続されている情報処理装置から文書番号が指定された場合に、該文書番号に応じたファクシミリデータを、該情報処理装置に送信するようにした技術がある。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】 上記技術は、ファクシミリゲートウェイという新たな装置を設計する必要がある

り、また、情報処理装置から文書番号が指定されないかぎり、ファクシミリデータが記憶されたままとなるので、記憶手段の負荷が増加するという問題点がある。

【0006】一方、近年、増加傾向にあるOA機器のネットワーク化に伴い、LANに接続可能なファクシミリ装置が製品化されている。このようなファクシミリ装置は、LANインタフェース手段を有しており、LANに接続されている情報処理装置との間でデータを送受信することができる。

【0007】そこで、本発明の目的は、LANに接続可能なファクシミリ装置において、電話回線を介して受信したファクシミリデータを、LANに接続されている情報処理装置に送信することにより、ファクシミリデータの自動配信を行うことを可能とすることにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明は、1つ以上の情報処理装置が接続されているLANと、電話回線とに接続されたファクシミリ装置において、上記情報処理装置との間で、LANを介して、データを送受信するためのLANインタフェース手段と、電話回線を介して受信したファクシミリデータを記憶する第1の記憶手段と、上記第1の記憶手段に記憶されているファクシミリデータに、該ファクシミリデータの送信元であるファクシミリ装置の識別情報が付加されている場合に、該ファクシミリ装置の識別情報に基づいて、該ファクシミリデータの送信先となる情報処理装置を決定する決定手段を備えるようにし、上記LANインタフェース手段は、上記決定手段により決定された情報処理装置に、該ファクシミリデータを送信するようにしている。

【0009】上記決定手段が送信先となる情報処理装置を決定するためには、詳しくは、上記情報処理装置のうちの1つが、1つ以上のファクシミリ装置の識別情報と上記情報処理装置のうちの少なくとも1つの情報処理装置の識別情報とを対応付けて記憶している第2の記憶手段を備えるようにした場合に、上記決定手段は、上記LANインタフェース手段を用いて、上記第2の記憶手段の記憶内容を参照し、参照結果に基づいて、送信元であるファクシミリ装置の識別情報に対応する情報処理装置の識別情報が示す情報処理装置を、ファクシミリデータの送信先となる情報処理装置であると決定することができる。

【0010】また、詳しくは、本発明のファクシミリ装置が、1つ以上のファクシミリ装置の識別情報と上記情報処理装置のうちの少なくとも1つの情報処理装置の識別情報とを対応付けて記憶している第2の記憶手段をさらに備えるようにした場合に、上記決定手段は、上記第2の記憶手段の記憶内容を参照し、参照結果に基づいて、送信元であるファクシミリ装置の識別情報に対応する情報処理装置の識別情報が示す情報処理装置を、ファ

クシミリデータの送信先となる情報処理装置であると決定することができる。

【0011】なお、上記決定手段は、送信元であるファクシミリ装置の識別情報に対応する情報処理装置の識別情報が上記第2の記憶手段に記憶されていない場合、または、送信元であるファクシミリ装置の識別情報がファクシミリデータに付加されていない場合は、ファクシミリデータを自身で記録出力するようにすることができる。

【0012】また、上記第2の記憶手段の記憶内容は、外部から入力/変更可能であるようにすることが好ましい。

【0013】

【作用】本発明のファクシミリ装置においては、上記決定手段が、電話回線を介して受信したファクシミリデータに付加されている、該ファクシミリデータの送信元であるファクシミリ装置の識別情報、および、上記第2の記憶手段の記憶内容に基づいて、該ファクシミリデータの送信先となる情報処理装置を決定し、上記LANインタフェース手段が、該ファクシミリデータを、LANを介して、上記決定手段により決定された情報処理装置に送信するようにしている。

【0014】上記第2の記憶手段の記憶内容を変更することにより、任意のファクシミリ装置から送信されてきたファクシミリデータを、任意の情報処理装置に送信することができるので、ファクシミリデータの自動配信を行うことができ、ファクシミリデータの配信作業を行うオペレータの必要はない。

【0015】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0016】図1は本発明の第1の実施例のファクシミリ装置を適用したファクシミリシステムの構成図である。

【0017】図1において、1はプリンタ、2はファイル格納部、3はパーソナルコンピュータ、4は本実施例のファクシミリ装置、5はLANインタフェース部、6は主制御部、7はモデム部・回線制御部、8は記録部、9はファイル格納部、10は電話回線、11はLAN、12はファクシミリ装置である。

【0018】本実施例においては、ファクシミリ装置4は、LANインタフェース部5を有しており、LAN11に接続することができるようになっている。すなわち、ファクシミリ装置4は、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されたファクシミリデータを、LAN11を介してパーソナルコンピュータ3に送信することができるようになっている。

【0019】そして、例えば、ファクシミリ装置a12から送信されたファクシミリデータをパーソナルコンピュータA3に送信し、ファクシミリ装置b12から送信

されたファクシミリデータをパーソナルコンピュータB3に送信し、ファクシミリ装置c12から送信されたファクシミリデータをパーソナルコンピュータC3に送信するということに、ファクシミリデータの送信元であるファクシミリ装置12に応じたパーソナルコンピュータ3に、該ファクシミリデータを送信するするようにしている。

【0020】送信先となるパーソナルコンピュータ3を決定するためには、ファクシミリ装置12とパーソナルコンピュータ3とを対応付けて記憶しておき、ファクシミリデータの送信元であるファクシミリ装置12を識別し、該ファクシミリ装置12に対応するパーソナルコンピュータ3を決定するようにする必要がある。

【0021】そこで、まず、ファクシミリ装置12を識別するための本実施例の動作について説明する。

【0022】ファクシミリ装置12を識別するためには、ファクシミリ装置12から送信されたファクシミリデータに付加されている識別情報を用いるようにする。この識別情報は、ファクシミリデータを送信したファクシミリ装置12が付加する情報を利用したり、ファクシミリ装置12のユーザがファクシミリデータに付加する情報を利用したりすることができる。

【0023】前者の例としては、G3ファクシミリ通信手順において、送信元であるファクシミリ装置12から送信されてくるTSI（送信端末識別）信号が挙げられる。また、G4ファクシミリ通信手順において、送信元であるファクシミリ装置12から送信されてくるサブアドレスが挙げられる。

【0024】後者の例としては、ファクシミリ装置12のユーザが送信原稿の予め決められた場所に記入した送信元ID（例えば、ファクシミリ装置12の電話番号等）が挙げられる。なお、ファクシミリ装置12のユーザが、送信元IDが既に記入されている規定の用紙を送信するようにしてもよい。

【0025】これにより、ファクシミリ装置4は、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合に、受信したファクシミリデータに付加されている識別情報を参照することにより、送信元であるファクシミリ装置12を識別することができる。

【0026】次に、ファクシミリ装置12とパーソナルコンピュータ3とを対応付けて記憶するための本実施例の動作について説明する。

【0027】図2はファイル格納部2の記憶内容の一部を示す図である。

【0028】図2に示すように、パーソナルコンピュータB3に接続されているファイル格納部2は、ファクシミリ装置12の識別情報とパーソナルコンピュータ3の識別情報（例えば、LAN11におけるアドレス等）とを対応付けたテーブルを記憶している。このテーブルに

においては、ファクシミリ装置a12とパーソナルコンピュータA3とが対応し、ファクシミリ装置b12とパーソナルコンピュータB3とが対応し、ファクシミリ装置c12とパーソナルコンピュータC3とが対応している。

【0029】ユーザは、パーソナルコンピュータ3からユーティリティソフトを用いることにより、このテーブルをファイル格納部2に記憶させることができる。

【0030】次に、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合の本実施例の動作について説明する。

【0031】図3はファクシミリ装置4の動作フローチャートである。

【0032】ファクシミリ装置4においては、モデム部・回線制御部7が、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されてきたファクシミリデータを受信すると、主制御部6は、このファクシミリデータをファイル格納部9に記憶させる。そして、ファクシミリ通信終了後（ステップ300）、主制御部6は、ファイル格納部9に記憶されているファクシミリデータに付加されているファクシミリ装置12の識別情報を参照し（ステップ301）、続いて、LANインタフェース5を制御し、LAN11を介して、ファイル格納部2に記憶されているテーブルを検索する（ステップ302）。

【0033】検索の結果、ファクシミリ装置12の識別情報に対応するパーソナルコンピュータ3の識別情報があつた場合は（ステップ303）、主制御部6は、LANインタフェース5を制御し、LAN11を介して、ファイル格納部9に記憶されているファクシミリデータを、パーソナルコンピュータ3の識別情報が示すパーソナルコンピュータ3に送信する（ステップ304）。また、ファクシミリ装置12の識別情報に対応するパーソナルコンピュータ3の識別情報がなかった場合は（ステップ303）、主制御部6は、記録部8を制御して、ファイル格納部9に記憶されているファクシミリデータを用紙に記録出力する（ステップ305）。

【0034】上述したように、本実施例のファクシミリ装置4は、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合に、該ファクシミリデータに付加されているファクシミリ装置12の識別情報、および、予めファイル格納部9に記憶されているテーブルの内容に基づいて、該ファクシミリデータの送信先となるパーソナルコンピュータ3を決定し、該ファクシミリデータを、決定したパーソナルコンピュータ3にLAN11を介して送信することができる。

【0035】また、本実施例のファクシミリ装置4は、ファクシミリ装置12の識別情報が付加されていないファクシミリデータを受信した場合、または、パーソナルコンピュータ3の識別情報と対応付けたテーブルに記憶

されていないファクシミリ装置 1 2 (例えば、ファクシミリ装置 d 1 2) から送信されてきたファクシミリデータを受信した場合には、該ファクシミリデータを、自身が記録出力することができる。

【0036】従って、ユーザは、予め、送信元であるファクシミリ装置 1 2 と送信先となるパーソナルコンピュータ 3 とを対応付けておけば、任意のパーソナルコンピュータ 3 でファクシミリデータを受信することができ、さらに、データ形式を変換する機能を追加することにより、受信したファクシミリデータをプリンタ 1 で記録出力することができる。

【0037】さて、以下に、本発明の第 2 の実施例について説明する。

【0038】本実施例のファクシミリ装置を適用したファクシミリシステムの構成は、上記第 1 の実施例のファクシミリ装置を適用したファクシミリシステムの構成と同様である。

【0039】本実施例においても、ファクシミリ装置 4 は、ファクシミリ装置 1 2 から電話回線 1 0 を介して送信されたファクシミリデータを、LAN 1 1 を介してパーソナルコンピュータ 3 に送信することができるようになってい

【0040】そして、ファクシミリ装置 a 1 2, ファクシミリ装置 b 1 2, ファクシミリ装置 c 1 2 から送信されたファクシミリデータを、パーソナルコンピュータ B 3 に送信し、このパーソナルコンピュータ B 3 に接続されているファイル格納部 2 に、ファイルとして記憶させるようにしている。

【0041】本実施例において、ファクシミリ装置 1 2 を識別するための動作は、上記第 1 の実施例の動作と同様である。

【0042】また、本実施例においては、送信先となるパーソナルコンピュータ 3 は、特定のパーソナルコンピュータ B 3 に既に決定されているので、このパーソナルコンピュータ B 3 に対応するファクシミリ装置 1 2 を記憶するようにすればよい。

【0043】次に、パーソナルコンピュータ 3 に対応するファクシミリ装置 1 2 を記憶するための本実施例の動作について説明する。

【0044】図 4 はファイル格納部 2 の記憶内容の一部を示す図である。

【0045】図 4 に示すように、パーソナルコンピュータ B 3 に接続されているファイル格納部 2 は、ファクシミリ装置 1 2 の識別情報を示すテーブルを記憶している。このテーブルにおいては、ファクシミリ装置 a 1 2, ファクシミリ装置 b 1 2, ファクシミリ装置 c 1 2 が、パーソナルコンピュータ B 3 に対応している。さらに、このテーブルにおいては、パーソナルコンピュータ B 3 が、ファクシミリ装置 4 から LAN 1 1 を介して送信されてきたファクシミリデータを、ファイルとしてフ

ァイル格納部 2 に記憶させる際のディレクトリ名 (「FAXDATA」) が記憶されている。

【0046】ユーザは、パーソナルコンピュータ 3 からユーティリティソフトを用いることにより、このテーブルをファイル格納部 2 に記憶させることができる。

【0047】次に、ファクシミリ装置 1 2 から電話回線 1 0 を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合の本実施例の動作について説明する。

【0048】図 5 はファクシミリ装置 4 の動作フローチャートである。

【0049】ファクシミリ装置 4 においては、モデム部・回線制御部 7 が、ファクシミリ装置 1 2 から電話回線 1 0 を介して送信されてきたファクシミリデータを受信すると、主制御部 6 は、このファクシミリデータをファイル格納部 9 に記憶させる。そして、ファクシミリ通信終了後 (ステップ 5 0 0)、主制御部 6 は、ファイル格納部 9 に記憶されているファクシミリデータに付加されているファクシミリ装置 1 2 の識別情報を参照し (ステップ 5 0 1)、続いて、LAN インタフェース 5 を制御し、LAN 1 1 を介して、ファイル格納部 2 に記憶されているテーブルを検索する (ステップ 5 0 2)。

【0050】検索の結果、ファクシミリ装置 1 2 の識別情報があつた場合は (ステップ 5 0 3)、主制御部 6 は、LAN インタフェース 5 を制御し、LAN 1 1 を介して、ファイル格納部 9 に記憶されているファクシミリデータを、パーソナルコンピュータ B 3 に送信する (ステップ 5 0 4)。また、ファクシミリ装置 1 2 の識別情報がなかった場合は (ステップ 5 0 3)、主制御部 6 は、記録部 8 を制御して、ファイル格納部 9 に記憶されているファクシミリデータを用紙に記録出力する (ステップ 5 0 5)。

【0051】上述したように、本実施例のファクシミリ装置 4 は、ファクシミリ装置 1 2 から電話回線 1 0 を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合に、該ファクシミリデータに付加されているファクシミリ装置 1 2 の識別情報、および、予めファイル格納部 9 に記憶されているテーブルの内容に基づいて、特定のパーソナルコンピュータ B 3 に LAN 1 1 を介して送信することができ、パーソナルコンピュータ B 3 は、ファクシミリ装置 4 から LAN 1 1 を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合に、予めファイル格納部 9 に記憶されているテーブルの内容に基づいて、該ファクシミリデータを、ファイルとして、自身に接続されているファイル格納部 2 に記憶させることができる。

【0052】また、本実施例のファクシミリ装置 4 は、ファクシミリ装置 1 2 の識別情報が付加されていないファクシミリデータを受信した場合、または、ファクシミリ装置 1 2 の識別情報がテーブルに記憶されていないファクシミリ装置 1 2 (例えば、ファクシミリ装置 d 1 2) から送信されてきたファクシミリデータを受信した

場合には、該ファクシミリデータを、自身が記録出力することができる。

【0053】従って、ユーザは、送信元であるファクシミリ装置12とファクシミリデータをファイルとしてファイル格納部2に記憶させる際のディレクトリ名とを予め指定しておけば、ファクシミリデータをファイル格納部2に記憶させることができる。

【0054】なお、ファイル格納部2に記憶されたファクシミリデータは、LAN通信手順を用いて、任意のパーソナルコンピュータ3から受け取ることができ、さらに、データ形式を変換する機能を追加することにより、ファイル格納部2に記憶されたファクシミリデータをプリンタ1で記録出力することができる。

【0055】また、上述した第1の実施例および第2の実施例においては、それぞれ、テーブルをパーソナルコンピュータB3に接続されているファイル格納部2に記憶させているが、これは、ファクシミリ装置4のファイル格納部9がファクシミリデータを記憶する必要がある、記憶容量を考慮していることによるものである。そこで、ファイル格納部9の記憶容量に支障がなければ、20 テーブルをファクシミリ装置4のファイル格納部9に記憶させてもよい。

【0056】また、上述した第1の実施例および第2の実施例においては、それぞれ、ファクシミリ装置4の動作について、ファクシミリ装置12から電話回線10を介して送信されてきたファクシミリデータを受信した場合のみを説明しているが、パーソナルコンピュータ3からLAN11を介して送信されてきたデータを、電話回

線10を介して、ファクシミリ装置12に送信することも可能であることはいうまでもない。

【0057】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のファクシミリ装置によれば、任意のファクシミリ装置から電話回線を介して送信されてきたファクシミリデータを、任意のパーソナルコンピュータにLANを介して送信することができるので、ファクシミリデータの自動配信を行うことができ、ファクシミリデータの配信作業を行うオペレータの必要がなく、経済性に優れている。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1の実施例のファクシミリ装置を適用したファクシミリシステムの構成図。

【図2】第1の実施例におけるファイル格納部の記憶内容の一部を示す説明図。

【図3】第1の実施例のファクシミリ装置の動作フローチャート。

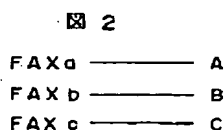
【図4】第2の実施例におけるファイル格納部の記憶内容の一部を示す説明図。

【図5】第2の実施例のファクシミリ装置の動作フローチャート。

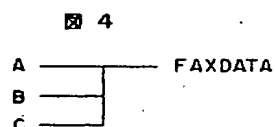
【符号の説明】

1…プリンタ、2…ファイル格納部、3…パーソナルコンピュータ、4…ファクシミリ装置、5…LANインタフェース部、6…主制御部、7…モデム部・回線制御部、8…記録部、9…ファイル格納部、10…電話回線、11…LAN、12…ファクシミリ装置。

【図2】



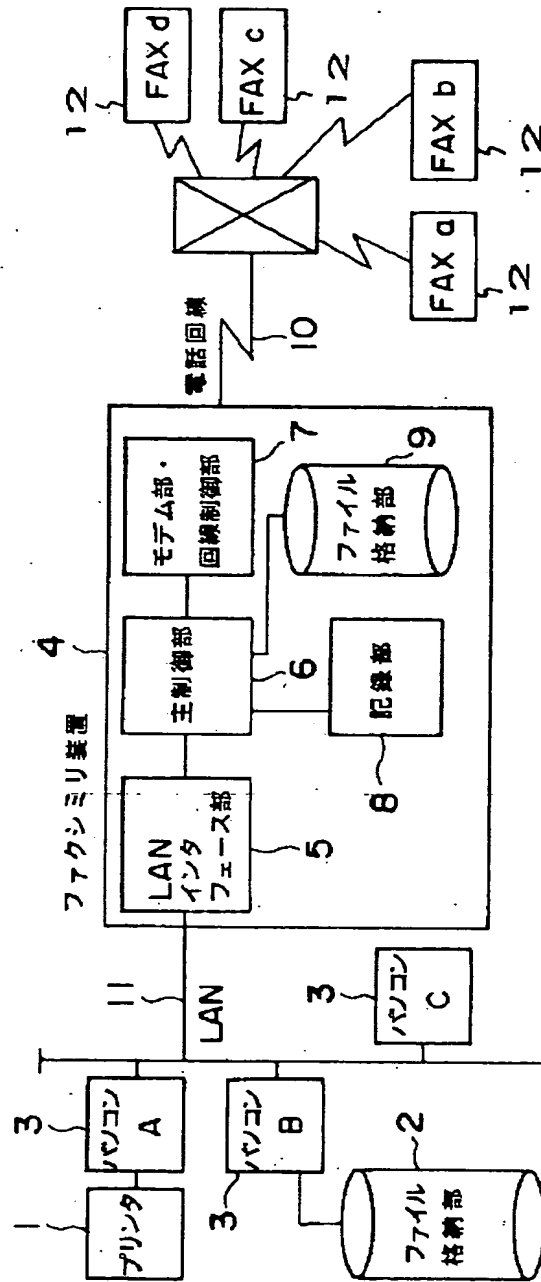
【図4】





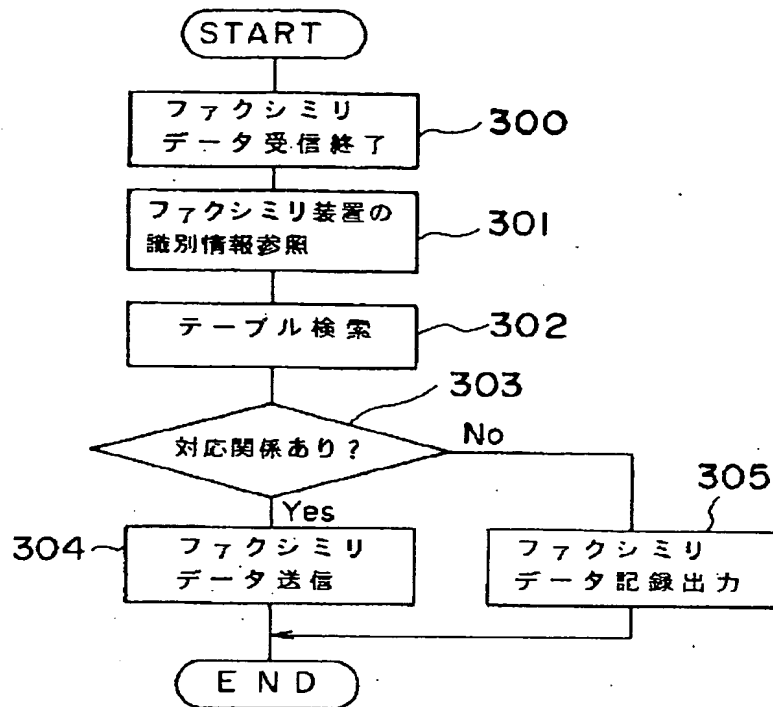
【図1】

図1



【図3】

図 3



【図5】

